

2 施設整備の今後の進め方

(1) 連絡管、広域調整池の施設整備

現在建設中の連絡管、基幹管路の管網化及び広域調整池については、事故・災害時の水道の安定供給に寄与することから、早期に供用開始出来るよう工事進捗を図る。

今までの取り組み

ア 連絡管

連絡管は事故、地震等の異常事態時又は浄水場の施設更新工事等により給水能力が低下した際に、浄水場系統間を連絡管で接続することにより、水道用水を応急的に相互融通（1人当たり80リットル/日相当量）する機能を目的としている。

イ 基幹管路の管網化

基幹管路の管網化は、県営水道の基幹となる送水管を二重化・管網化を図ることにより、基幹管路の代替機能を確保することを目的としている。

ウ 広域調整池

広域調整池は、突発的事故（水質、停電、漏水事故等）や地震災害時等の異常事態時においても、浄水場浄水池などの容量と併せて次のとおり水道水を確保することを目的としている。

突発的事故・・・計画1日最大給水量の6時間分相当量

地震災害時・・・1人当たり1週間で180リットル相当量

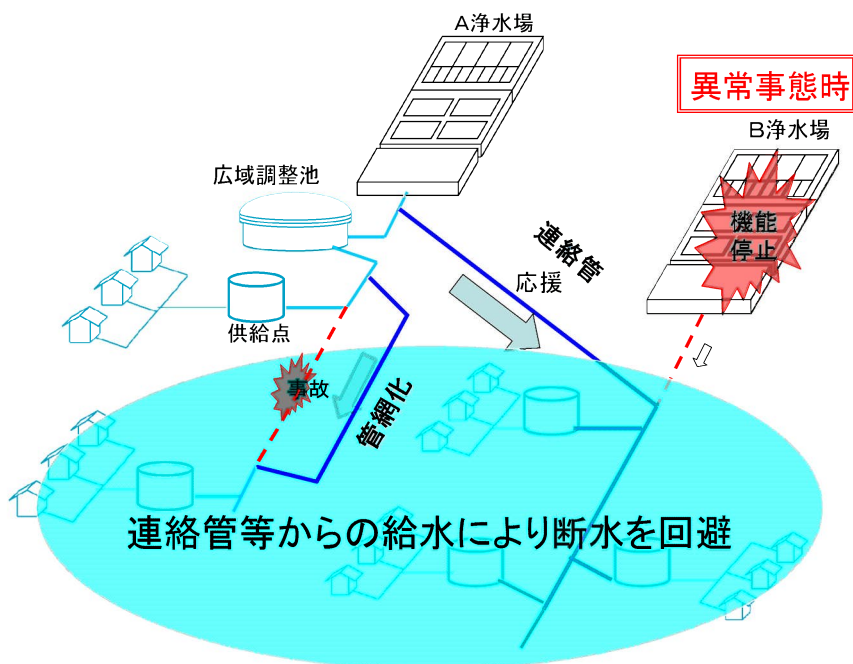


図1 連絡管・基幹管路の管網化の機能

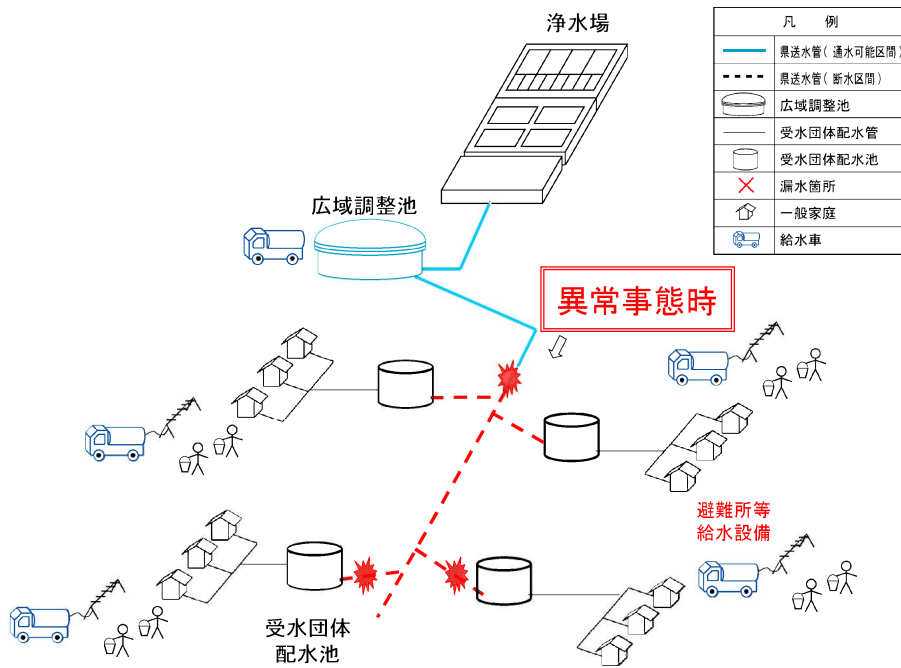


図 2 広域調整池の機能

表 1 建設中の連絡管、広域調整池等の進捗状況

	概要	H22 迄	H23	H24	H25	H26 以降
連絡管	2 路線	(1 4 %)	(2 3 %)	(3 4 %)	(4 6 %)	
	延長 3 5 k m	5 k m	3 k m	4 k m	4 k m	1 9 k m
基幹管路の管網化	1 路線	(2 1 %)	(2 9 %)	(4 3 %)	(5 7 %)	
	延長 1 4 k m	3 k m	1 k m	2 k m	2 k m	6 k m
広域調整池	6 か所	(1 3 %)	(1 3 %)	(2 5 %)	(2 5 %)	
	容量 6 4 千 m ³	8 千 m ³	0 千 m ³	8 千 m ³	0 千 m ³	4 8 千 m ³

※ 上段 () は進捗率累計を示し、下段は単年度施工量を示す。

課 題

- 連絡管、基幹管路の管網化及び広域調整池の整備は、工事環境や地元状況等により当初予定していた平成 2 6 年までの建設完了が困難な状況にあること。

今後の取り組み

- 現在、調査設計若しくは工事中の次の施設を早期に完成させる。
 連絡管：第 2 犬山幹線、豊橋城下線、上野知多連絡線
 広域調整池：知多、海部、豊田、岡崎、西尾幡豆、豊橋